

各設置校の開校・開学年

- 1924年(大正13年) 8月 自動車運転技能教授所 設立 ※本法人の創設
- 1953年(昭和28年) 4月 北海道自動車短期大学 開学
- 1956年(昭和31年) 4月 北海道工業高等学校 開校(2001年 北海道尚志学園高等学校 校名変更)
- 1967年(昭和42年) 4月 北海道工業大学 開学
- 1974年(昭和49年) 4月 北海道薬科大学 開学

2014年～2024年 100周年に向けた各年ごとの主な取り組み

- 2014年 学園創立90周年 100周年に向けた活動が本格的に始動
学校法人北海道尚志学園を学校法人北海道科学大学へ法人名称変更
北海道工業大学を北海道科学大学へ改称
北海道自動車短期大学を北海道科学大学短期大学部へ改称
- 2015年 北海道科学大学短期大学部(札幌市豊平区)及び
北海道薬科大学(小樽市)が前田キャンパスへ移転
- 2016年 北海道科学大学大学院工学研究科(博士後期課程)工学専攻開設(既存4専攻を再編)
北海道尚志学園高等学校を北海道科学大学高等学校へ改称
- 2017年 北海道科学大学高等学校 学科再編
- 2018年 北海道薬科大学が北海道科学大学と統合
北海道科学大学大学院保健医療学研究科看護学専攻・リハビリテーション科学専攻・
医療技術学専攻(修士課程)開設
- 2019年 100周年記念事業実行委員会発足
- 2020年 北海道科学大学大学院保健医療学研究科(博士後期課程)保健医療学専攻開設
北海道科学大学公衆衛生看護学専攻科開設

2024年 北海道科学大学 法人創立100周年



創立100周年ブランドビジョン 「北海道No.1の実学系総合大学」達成に向けて

「宣言」を「実現」へ。

北海道が命名されて150年の時が経ち、私たちも2024年、創立100周年を迎えようとしています。本法人の歴史は、いつも北海道とともにありました。車時代の到来を見越した「自動車運転技能教授所」の設立に始まり、寒冷地技術の研究・教育に取り組みながら理工系技術者を養成するとともに、社会の要請に応え、保健医療学系や社会科学系の学部・学科を設置し、現在に至ります。

しかし時代が進む中で、少子高齢社会の急速な進行や大規模自然災害のリスク、猛威を振るい続ける新型コロナウイルスといった、目に見える課題、目に見えない脅威など、社会を取り巻く環境は刻一刻と変化しています。北海道の実学を支える教育機関として今「何を強化すべきか」「何を教育すべきか」を考え、次世代につなげていくことが、100周年という節目に立つ私たちの責務です。

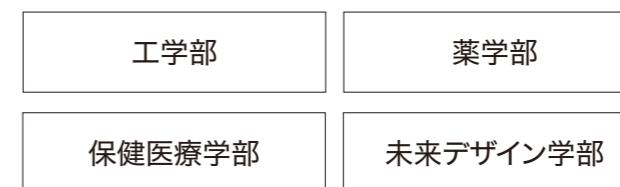
これからの北海道が縮小するのではなく、魅力ある大地へとさらに成長していくため、私たちは、100周年ブランドビジョンの「宣言」を「実現」へとつなげ、地域とともに発展・成長する学校法人として、その使命を全うし続けます。

〈北海道が抱える課題と本学の学問領域〉

強靱な北海道づくり
(社会基盤の整備)の推進、
バックアップ機能の強化

低炭素型ライフスタイルへの転換、
環境・エネルギー産業の育成

道産製品の海外展開、
インバウンドの
受入体制の整備、
ICTの活用



行政サービスの
持続的提供、
生活・定住環境の確保

人口減少の進行の緩和と
医療・介護面での対応

海外成長力の取り込み、
産業間連携による
高付加価値化

学校法人北海道科学大学の経営理念

新しい価値を創造する実学系教育を通じ地域社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く、北海道の発展に寄与する人材を育成する。

新しい価値を創造する— 一人々の暮らしを快適にし、幸せ・喜びを共有できるミライを生み出すこと

実学系教育を通じ— 地域の人々の暮らしを支える「人材」「学び」「知識・技術」をつなぎ合わせ、共に学び、主体的に考える教育体験を提供すること

地域社会からの期待に応え— 地域の様々なコミュニティとパートナーシップを築き、北海道が抱えている問題に真摯に向き合い、取り組むこと

一人ひとりが輝く— 「得意・専門性」を生かすチームづくりによって、イキイキと学びあう・成長する組織・文化をつくること

北海道の発展に寄与する人材を育成する— 北海道の発展に寄与する材料（データ）を切り口に、協働による成果を生み出す「+Professional」人材を育成すること

北海道科学大学 北海道科学大学短期大学部

社会的ニーズに応える新・教学体制のあり方

医療系人材の社会ニーズに、よりいっそうの対応を

2020年4月 北海道科学大学大学院 保健医療学研究科 博士後期課程 保健医療学専攻 開設
北海道科学大学 公衆衛生看護学専攻科 開設

2021年4月 北海道科学大学 保健医療学部 入学定員を変更（2020年4月、収容定員変更申請予定）

少子高齢化が急速に進む中で、北海道は全国を上回るスピードで人口減少が進んでおり、医療や福祉分野に従事する人材育成のニーズは依然高い状況にあります。本学では、保健医療系の研究の充実を図るとともに、次世代の大学教員を養成するための組織として、2020年4月、大学院 保健医療学研究科の3専攻に、博士後期課程 保健医療学専攻を開設。また、保健師教育の充実を図るため、看護師免許取得者を対象とした公衆衛生看護学専攻科を合わせて開設いたします。さらに、地域社会への早急な医療人の人的貢献を果たすため、2021年度から、保健医療学部の入学定員を同一学部内で振り替えること（看護学科、理学療法学科、義肢装具学科の定員変更）で、北海道の医療・介護分野を支える人材を育成していきます。

短期大学部の学生募集停止と、既存学部の改組を構想

2021年4月 北海道科学大学 短期大学部 学生募集停止

北海道科学大学は「自動車」をキーワードに北海道の発展に貢献してきました。本法人の創設者である伏木田隆作は、車時代の到来を早くから予見し、戦後の北海道を開拓。しかし、法人の創立から100年が経とうとする中で、モータリゼーションの果たす役割が大きく変わりつつある環境の下、自動車に精通したエンジニアの養成を目的とした短期大学部はその役割を十分に果たしたと考え、蓄積された教育研究成果は、今後工学部が引き継ぎ、新たな時代を牽引する人材育成に努めます。

また本学は4学部13学科を擁しており、ここに学ぶ約5,000人の教育をさらに高めるための教育改革として、Society5.0時代の教育モデルを構築するべく、全ての学部での「データサイエンス教育」を導入します。さらに、地域社会の経営的な課題や新たなもの作りを実践していくために、ものごとを伝える手法としてのデザインやアートの力に着目し、工学部、未来デザイン学部において、学問領域の拡大を図り、新時代の人材育成に努めます。

看護学科

80名 ▶ **90名**

理学療法学科

40名 ▶ **50名**

北海道科学大学高等学校

高大一体型教育の実現に向けた、高校の前田キャンパス移転及び新校舎説明

高校と大学を持つ、本法人のメリットを最大限に活かす「高大一体型教育」

2023年4月 北海道科学大学高等学校を豊平区中の島から、手稲区前田キャンパスへ移転

本校が推進する「高大一体型教育」とは？

これまで行われてきた非日常型の連携ではなく、大学のさまざまな資源を高校生が日常的に活用することで、気づきや自主性、可能性を大いに育む、新しい教育スタイルのことです。教育課程編成でのポイントは「高校と大学間の単位相互認定」を始め特別進学コースの強化、高度な情報教育、体験重視型教育の充実など本校独自のプログラムの実施を構想しています。

新校舎のご紹介

新校舎は、前田キャンパスの南側に位置し、大きな三角形が印象的な建物です。高校専用の正門を抜けると開放的なエントランスが広がり、地上4階建て、総面積約13,000平方メートルの校舎が広がります。大学と同じように、上履きへの履き替えが必要ない一足制を採用します。校舎内は4階まで続く吹き抜けや、廊下という概念のないオープンな空間が広がります。1階の多目的スペースは、校舎前面の庭園と地続きでつながり、教員と生徒が学び、憩い、語らう場として、さまざまな目的で利用することができます。

キャンパスの特色

- 北海道にいながらにして、世界に視野を広げることができる「グローバル教室」を設けます。語学や文化など、世界のさまざまな情報を手にすることができる空間で、生徒たちの国際性を育てます。
- 多様な学びに対応する「アクティブ・ラーニングスペース」や、生徒と先生が身近にコミュニケーションを図れる「メディアゾーン」の設置、また、さまざまな場所にフリースペースを設け、生徒たちの自主性を伸ばします。
- 大学と一体になった教育活動を展開することで、生徒たちは「基盤能力」+「専門性への入口」を学ぶことが可能になります。高校時代に、多様な価値観や専門性を持つ大学での体験・経験を通して、自分の未来について、大いに悩み、最後は自分で選択するという、豊かな3年間を過ごせるキャンパスを実現します。

